

# ジャネット・アズヘッド 『舞踊分析法』に関する研究

石黒節子・清水まあや  
白井麻子・池田 三鈴

## ■研究目的

ジャネット・アズヘッド (Janet Adshhead, イギリス) は、1988年に『舞踊分析法—その理論と実際』を著した。彼女は、当時の英国の正課教育において舞踊を独立した教科にしようとする動きから、舞踊研究の基礎となる理論を構築しようとしていた。したがって、彼女の分析法は、様々な舞踊を対象とし、構造的なアプローチを目指したものだ。アズヘッドは既にあった動作分析法や記譜法が単に動作の記録にとどまっているといい、舞踊の成分の記述とその作品がおかれた状況をあわせて、ある舞踊の解釈そして評価へと統合することを分析法において試みた。

その成果は「解釈行為の概念化を行い、多重の様相を持つ論証過程に基づく、振り付けの解釈の必要性を描き出した点にある」(Jackson, 1994)といわれている。

ここでは、彼女の著書『舞踊分析法—その理論と実際』から、彼女の分析法における成果といわれる「解釈」の概念と実際の分析手順の理解をおして、出版より10年を経たこの方法論の価値と問題点を指摘し、考察することを目的とする。

## ■舞踊における「解釈」の概念

アズヘッドは、舞踊は「それ自体で独立した意味と意義を含むもの」であり、解釈する過程を通じて、唯一理解され、正しく評価される活動であるととらえる。

彼女のいう「解釈」とは「特定の事象、活動、表現、あるいは行動のフォルムの意味を、明確にしたり説明したりする過程」を意味する。彼女は、「解釈」がテキストや舞踊譜を基に行われ、その舞踊のジャンル、スタイル、中心的題材などとの関連において実証される妥当性をもつべきものであるとしながらも、同時に、それを行う個人の技能や知識に依存しているものであるという。

## ■舞踊分析の手順

分析は次の4段階で行われる。舞踊の成分記述(ステージ1)、そのフォルムの識別(ステージ2)、舞踊の解釈(ステージ3)、と評価(ステージ4)。彼女はそれぞれの段階で考察する事項を詳細に提示し、その用語の意味する概念を規定している。彼女はまた、この分析手順が「分析の参考枠」としての働きをもつだけであり、実際の分析では

様々な焦点を持ち、それぞれに適した方法論がとられるものとしている。

舞踊の成分の記述では、ムーブメント、ダンサー、視覚要素、聴覚要素の基本的なものを項目にし、また個々の成分における相互関係(複合性)を探りだし分類を行う。フォルムの識別では、作品全体の時間経過における各成分の関係や、時間軸上の一点でのそれらの関係を読み取り、構成全体でのモチーフの有無、クライマックス等を認識する。舞踊の解釈では、成分とフォルムの認識を通して、社会・文化的背景、コンテキスト、ジャンルとスタイル、中心的題材を特定し、さらには作品の特徴、質、意味または意義を認識し、理解する。評価は舞踊の価値に関連した判断である。その舞踊が現れた社会や文化における一般的価値やコンテキスト、それぞれの領域での基準、中心的題材に作品の評価は反映する。さらに振付や上演での有効性と適切さの認識をする。

## ■考察

彼女の分析法は、成分の記述やフォルムの認識をおして、ある舞踊における「テキスト」の記述を行い、「テキスト」とその舞踊をとりまく文化的・社会的背景など客観的な視点を加えて解釈と評価を行うものだったと読み取ることができた。

このように舞踊を「テキスト」としてとらえて分析を行うことに問題があるのではないかという指摘がされている(Jackson, 1994)が、これは、即興性を大きくとりいれた作品を分析するときに、特に問題となってくる点であると思われる。アズヘッドはのちに、即興による作品を複数の「テキスト」が存在するものとしてとらえ、その関係性を考慮することで分析がなされる(Adshhead, 1997)と提案しているが、振付家、ダンサー、観客の関係が大きく変化してきている現在、分析におけるこの「テキスト」の位置付けは果たして適切なのだろうか。上演に関するアプローチをどのようにとりいれるかが、これからの舞踊の分析に必要な視点であると考えられる。

## [引用・参考文献]

- Adshhead, J. Dance Analysis: theory and practice.  
London: Dance Books, 1988.  
… “Dance Analysis in Performance.”  
Dance Research vol.12 no. 2 1994:15-20.  
… “Analysis of Improvisation in Dance.”  
レクチャー資料、東京 1997  
Jackson, N. “Dance Analysis in the publication of Janet Adshhead and Susan Foster.”  
Dance Research vol.12 no.1 1994:3-14.